

放送による校長のことば（7月31日：夏休み前全体指導）

バスケットボールはブラウン、野球やソフトボール、ピンポンはホワイトと色がついており、「自分の目」そして「練習で身につけた技と感」でそれらを追いかけてたり、つかんだりしてそのスポーツに没頭します。白い画用紙に絵の具で色をつけ絵を描き上げたり、合唱ならパートごとのひとつひとつの音符や記号を読んで自分の音色を表現します。このように、私たちは身近なスポーツや文化に様々な色を取り入れながら長い時代にわたって親しんできました。しかし、今、世界中を震撼させている新型コロナウイルスは色がなく目に見えません。人は目に見えないものに対して恐怖を感じます。今後もしばらくは恐怖を感じる日々が続いていくと思われます。

さて、6月22日から始まった君たちの様子を見ていて振り返ってもらいたい点が2つあります。

ひとつは「挨拶」です。君たちは朝起きておうちの人に「おはよう」ときちんとあいさつができていますか。帰りの会の最後に「さようなら」といって、担任や学級の仲間にあいさつをしていますか。あいさつは言葉なので無色と思いがちですが、「心」という淡い温かい色で染まっています。その色があるから、声をかけられると何か気持ちがほっとするのです。あいさつがなければ、新型コロナウイルスのように恐怖を感じると思います。

そして 2 つ目は、「**時間を守る**」ということです。趣味や好きなことには、夢中になって時間を忘れるくらい長い時間を費やしたりします。しかし、例えば、インフルエンザに罹患して高熱をだしている時やお腹の調子を崩して下痢をおこしている時など「早くよくならないかな」と、できるだけ短い時間でつらい思いから解放されたいと願うはずです。

1 日は24時間と限りがあります。**限られた枠の中での生活**ですから、**生活に色、メリハリをつける意味で決めら時間をきちんと守ることには大変意義がある**のです。「チャイムが鳴り終わった時点で着席できていましたか?」「あと片付け、帰りの支度の時間を考えた上で部活動を終了し、完全下校を守っていましたか」。

部員全員がきちんと時間を守れる部活動は、頼もしくて何か強そうなイメージがあり、「**情熱の赤**」を感じます。だらだらして時間を守れない部活動は私は信用できません。ですから、強かったとしても弱かったとしてもあまり関心を持ってないので、「**透明な無色**」のイメージを持てしまいます。

この「挨拶」「**時間を守る**」ということは、人間としてもとても大切なことだと私は考えています。中間テストの点や北辰テストの偏差値は中学生、特に3年生にとっては大切でしょう。けれども『**当たり前のことをバカにしないで、ちゃんとする。自分らしく自分の色をきちんと表現できる人**』の方がもっと大切だと君たちに訴えたいと思います。

いよいよ夏休みに入ります。長かった臨時休校でリズムを崩してしまい、この1～2週間「やや疲れたな」とか「気分がすっきりしないな」と思う人も多かったかもしれません。これから3週間程の夏休みでぜひ調子を戻してください。そして、ぜひ、家での生活から「色のあるあいさつをする」、「時間を決めてメリハリのある生活をする」ことを心がけてみてください。そしてその調子で、前期後半を過ごしてみましょう。

8月24日に元気な笑顔に会えることを楽しみにしています。